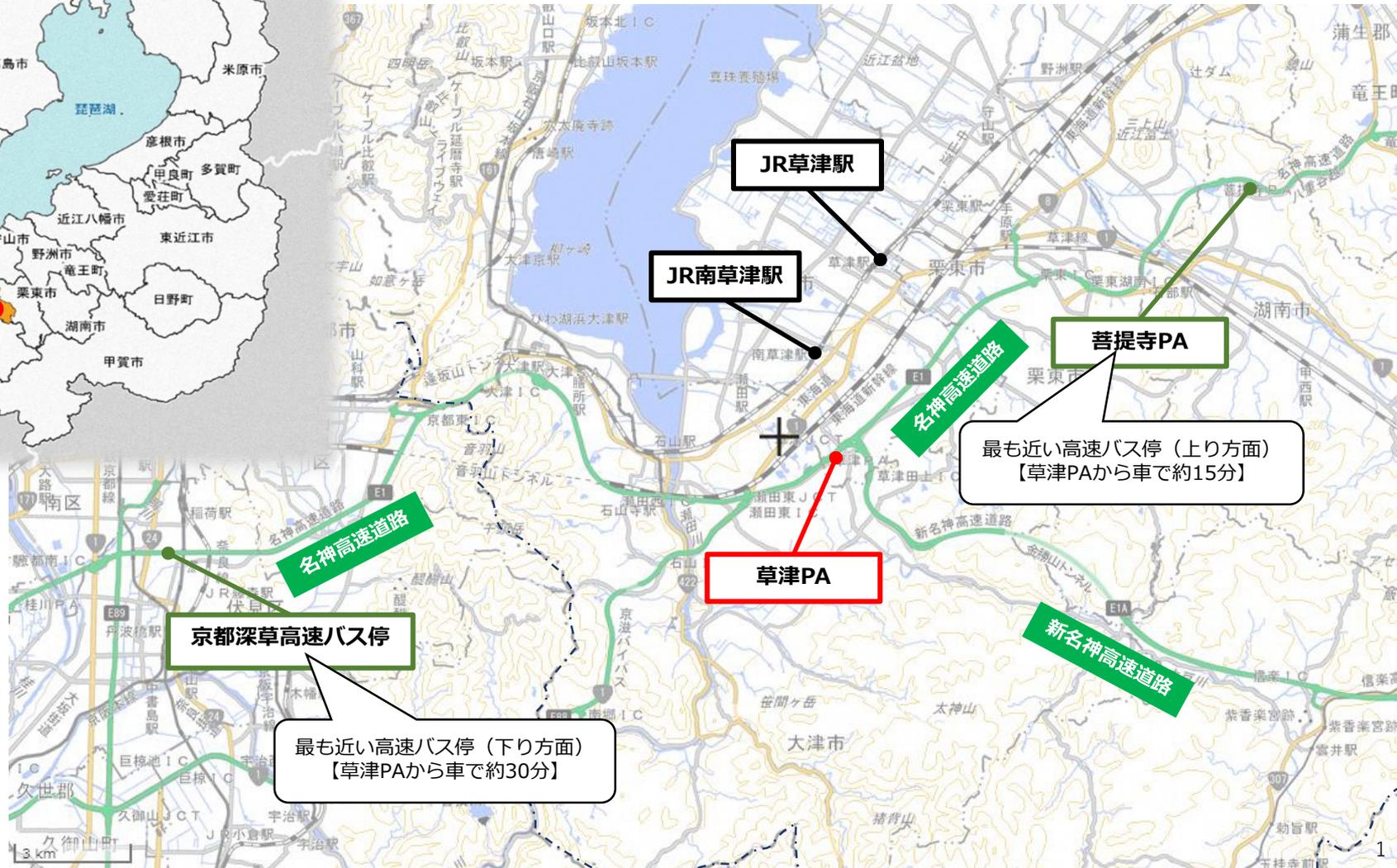


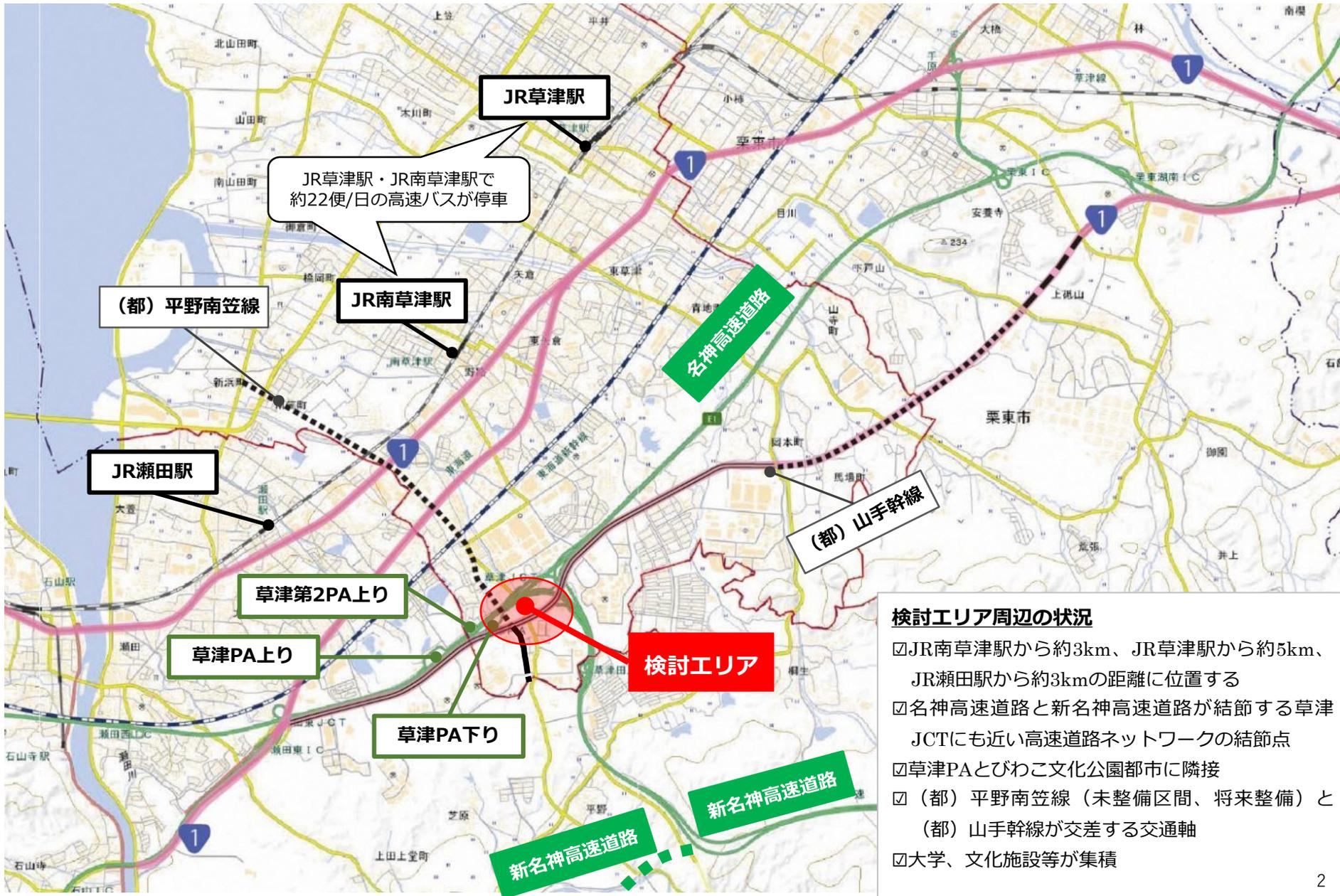
草津 P A と連携した 滋賀県南部エリアの活性化にかかわる これまでの取組について

草津市

1. 草津PA周辺の現状



1. 草津PA周辺の現状



検討エリア周辺の状況

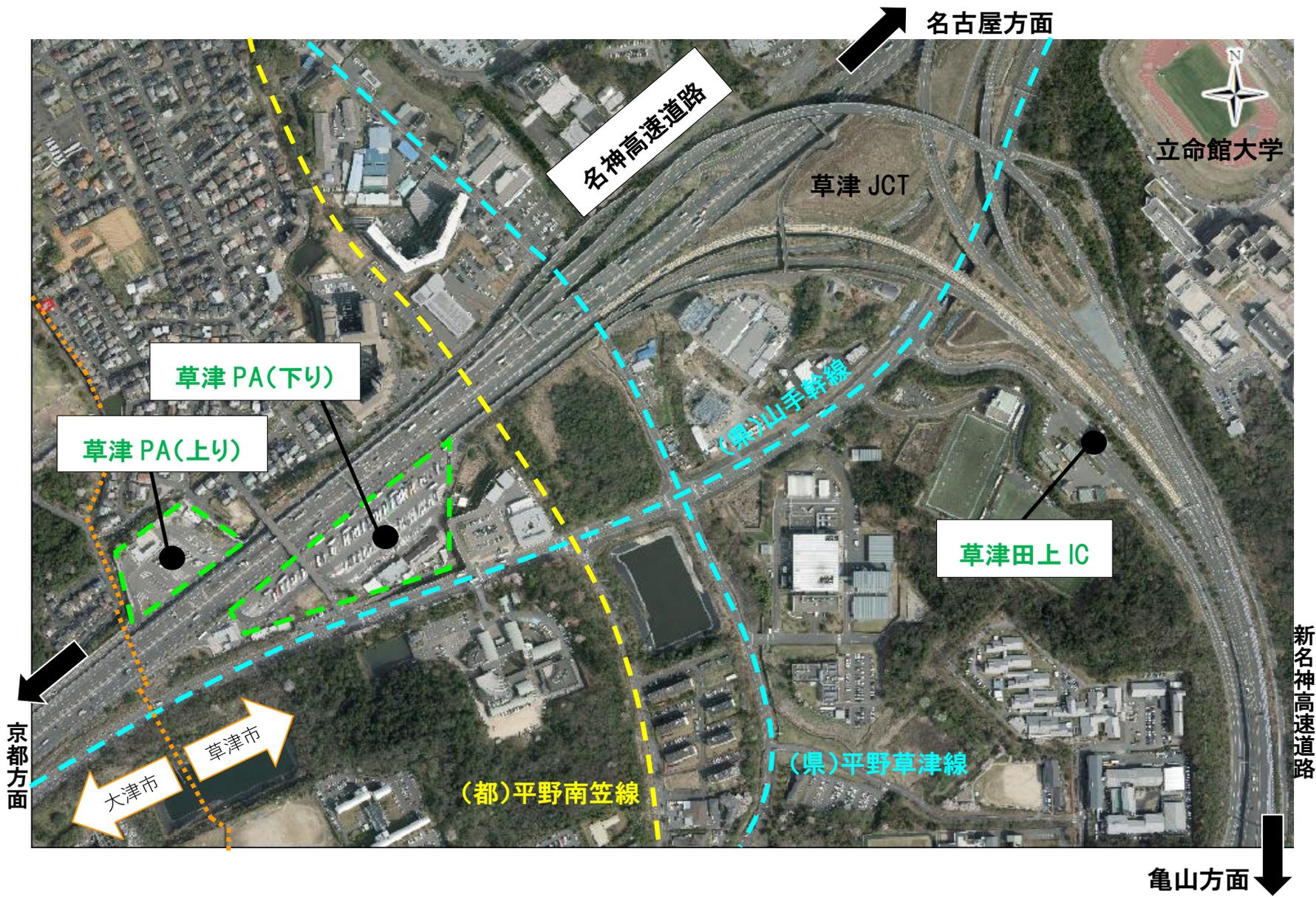
- ☑ JR南草津駅から約3km、JR草津駅から約5km、JR瀬田駅から約3kmの距離に位置する
- ☑ 名神高速道路と新名神高速道路が結節する草津JCTにも近い高速道路ネットワークの結節点
- ☑ 草津PAとびわこ文化公園都市に隣接
- ☑ (都) 平野南笠線 (未整備区間、将来整備) と (都) 山手幹線が交差する交通軸
- ☑ 大学、文化施設等が集積

1. 草津PA周辺の現状



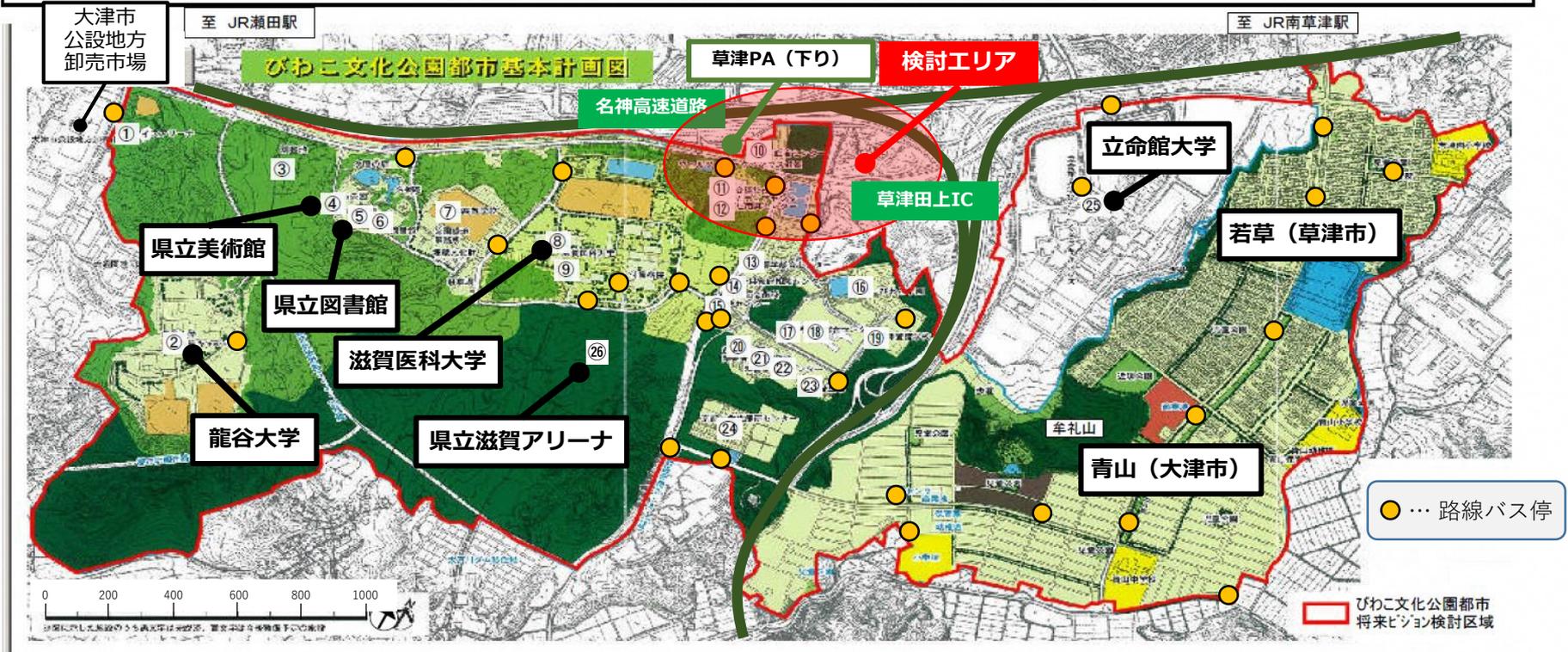
 : びわこ文化公園都市

1. 草津PA周辺の現状



1. 草津PA周辺の現状

びわこ文化公園都市 施設・機関位置図



びわこ文化公園都市内の施設と1日あたりの利用者 (学生数)

①県立アイスアリーナ	240	⑩日赤滋賀県赤十字センター	55	⑲草津養護学校	650
②龍谷大学瀬田キャンパス	4,000	⑪県立長寿社会福祉センター	224	⑳むれやま荘	—
③びわこ文化公園	—	⑫福祉用具センター	—	㉑滋賀県医療福祉相談モール	—
④県立美術館	494	⑬滋賀県薬剤師会	—	㉒県立障害者福祉センター	267
⑤県立図書館	800	⑭中央子ども家庭相談センター	—	㉓メイプル滋賀工場	41
⑥県埋蔵文化財センター	10	⑮滋賀県歯科医師会 (口腔衛生センター)	—	㉔京大大学生態学研究センター	60
⑦県立東大津高校	1,120	⑯びわこ学園医療福祉センター草津	450	㉕立命館大学びわこ・くさつキャンパス	15,400
⑧滋賀医科大学	2,366	⑰精神保健福祉センター	—	㉖県立滋賀アリーナ (R4.12竣工予定)	—
⑨滋賀医科大学附属病院	—	⑱精神医療センター	100		

2. 地域の課題

《びわこ文化公園都市将来ビジョン（平成24年8月滋賀県策定）》

最寄りJR駅（草津・南草津・瀬田）から路線バスを利用する場合、20路線、1日あたり477便（平日）が運行されているが、駅からのアクセス道路が国道1号、京滋バイパスと平面交差しているため渋滞が発生しやすいことや、文化施設等とバス停が離れているため高齢者等が利用しにくいこと、また、福祉ゾーンにアクセスするバスの便の不足感などの課題がある。（参考資料p.1-1）

びわこ文化公園都市内においては、東側の住宅地区にスーパー等があるものの、西側エリアには、物販・飲食施設などがほとんどなく、来訪者や居住者の食事や買い物の利便性が低くなっている。（参考資料p.1-1）

《南草津エリアまちづくり推進ビジョン（令和3年10月草津市策定）》

南草津エリアの南部は「びわこ文化公園都市」の一部を含み、草津田上インターチェンジ（IC）や草津パーキングエリア（PA）等の広域道路ネットワークを有する滋賀県南部の玄関口として地理的優位性を有しているものの、これらを十分に生かされていない状況となっています。

そのため、交通結節機能や交流機能等を強化するとともに、幹線道路沿道や低未利用地等の土地活用、企業誘致等による南草津エリアにおける更なる活力の創出が必要です。（参考資料p.4-1）

全国的な防災意識の高まりや南草津エリアにおける防災対策の現状を踏まえ、河川改修や避難所整備等の防災対策の強化や広域防災拠点の形成を推進していくことが必要です。（参考資料p.4-1）

3. 上位計画での位置付け

《第6次草津市総合計画基本構想（令和3年3月草津市策定）》

＜将来ビジョン＞

・当該構想の検討地周辺を、将来のまちの構造における「学術・広域連携拠点」に位置付け（参考資料p.2-1、2-2）。

■将来のまちの構造



3. 上位計画での位置付け

《草津市都市計画マスタープラン（令和4年1月草津市策定）》

＜全体構想＞

- ・びわこ文化公園都市周辺を、将来都市構造図を構成する「複合連携ゾーン」および「複合連携核」に位置付け（参考資料p.3-1、3-2、3-5、3-6）。
- ・当該構想の検討地を、将来都市構造図を構成する「高度利用区域」に位置付け（参考資料p.3-3、3-4）。
- ・土地利用の方針において「草津パーキングエリアと連携したびわこ文化公園都市の周辺の活性化」を示し、道路・交通の方針において当該地を「公共交通の主要結節点」として位置付け（参考資料p.3-9、3-10）。
- ・上記の位置付けに加え、将来都市構造図において、市内外や市内の核を道路や公共交通で効果的に結ぶことでのぎわいや利便性の向上を図るとともに、景観形成や防災性向上などに寄与することを目的に設定している「軸」の形成においても当構想の実現が必要となる（参考資料p.3-7、3-8）。

《関連する軸：広域連携軸、都市環状軸（ひがし環状軸）、地域連携軸》

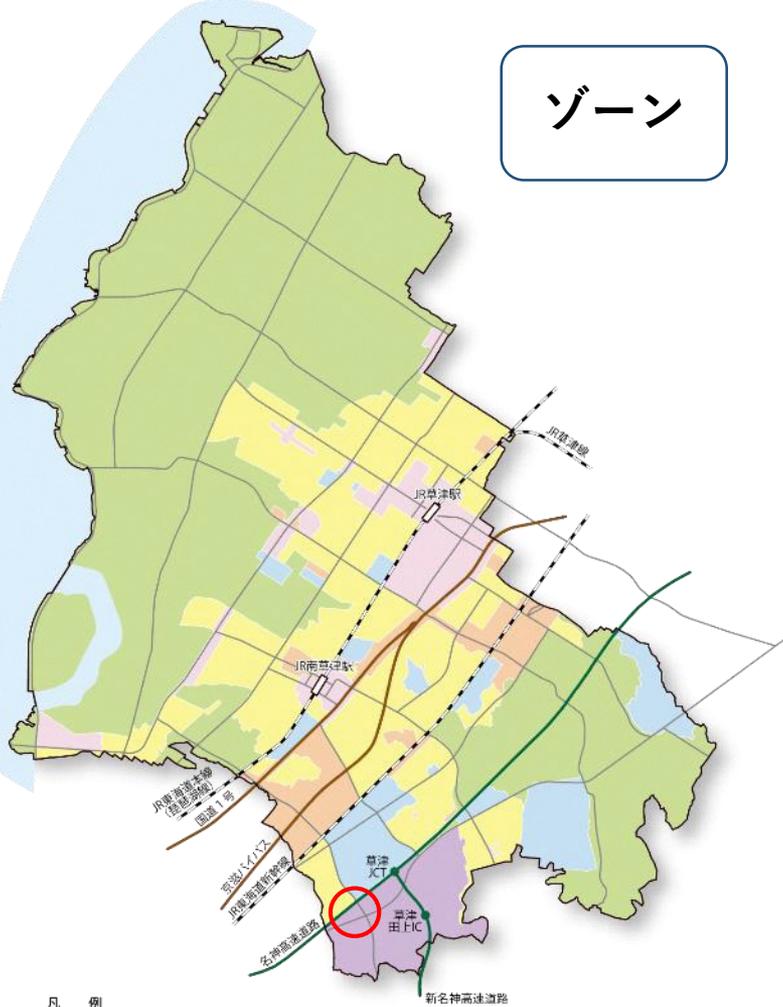
＜地域別構想＞

- ・検討地が属する「南部中心核地域」の土地利用の方針において「草津パーキングエリアと連携したびわこ文化公園都市の周辺の活性化」を示している（参考資料p.3-11）。

3. 上位計画での位置付け

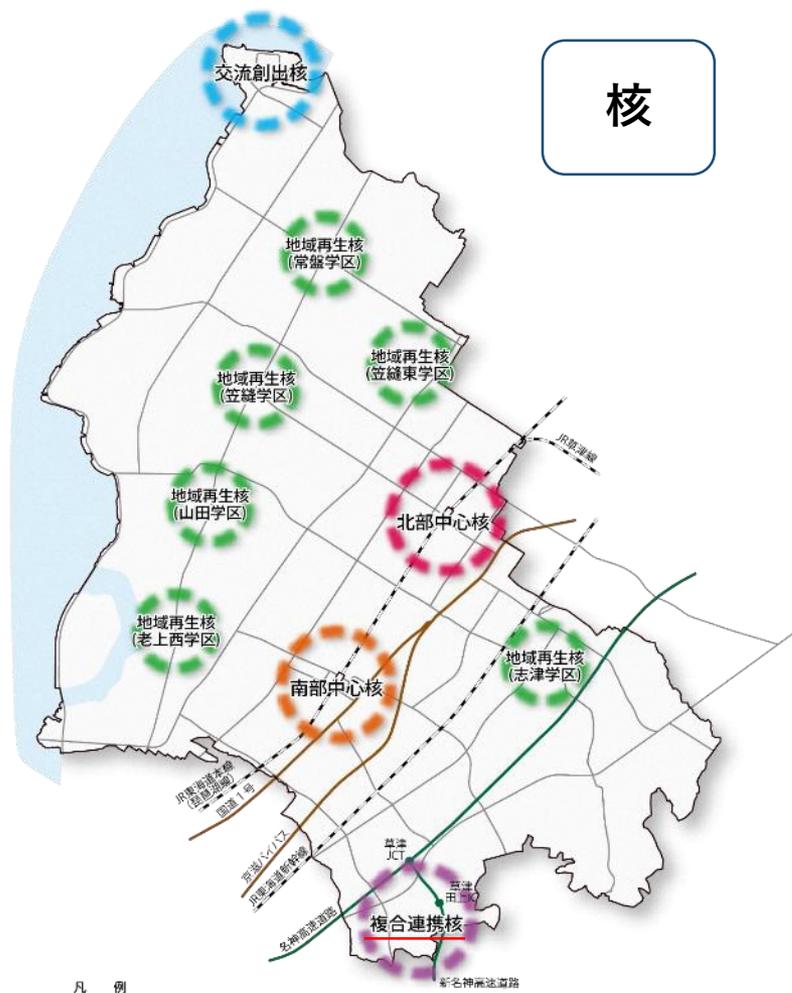
《草津市都市計画マスタープラン（令和4年1月草津市策定）》

ゾーン



- 凡 例
- (ゾーン)
- 商業ゾーン
 - 住宅ゾーン
 - 住工混和ゾーン
 - 工業ゾーン
 - 複合連携ゾーン
 - 自然共生ゾーン
 - 鉄道
 - 国道
 - 高速道路
 - 幹線道路

核



- 凡 例
- (核)
- 交流創出核
 - 地域再生核
 - 北部中心核
 - 南部中心核
 - 複合連携核
 - 鉄道
 - 国道
 - 高速道路
 - 幹線道路

3. 上位計画での位置付け

《草津市都市計画マスタープラン（令和4年1月草津市策定）》



土地利用
重点検討区域

- 凡例
- (土地利用重点検討区域)
- 高度利用区域
 - 市街化予備区域
 - 産業振興区域
 - 湖辺にぎわい創出区域
 - 市街化区域
 - 鉄道
 - 国道
 - 高速道路
 - 幹線道路



軸

- 凡例
- (軸)
- 広域連携軸(鉄道)
 - 広域連携軸(道路)
 - 都市環状軸
 - 地域連携軸
 - 水とみどりの軸
 - 鉄道
 - 国道
 - 高速道路
 - 幹線道路

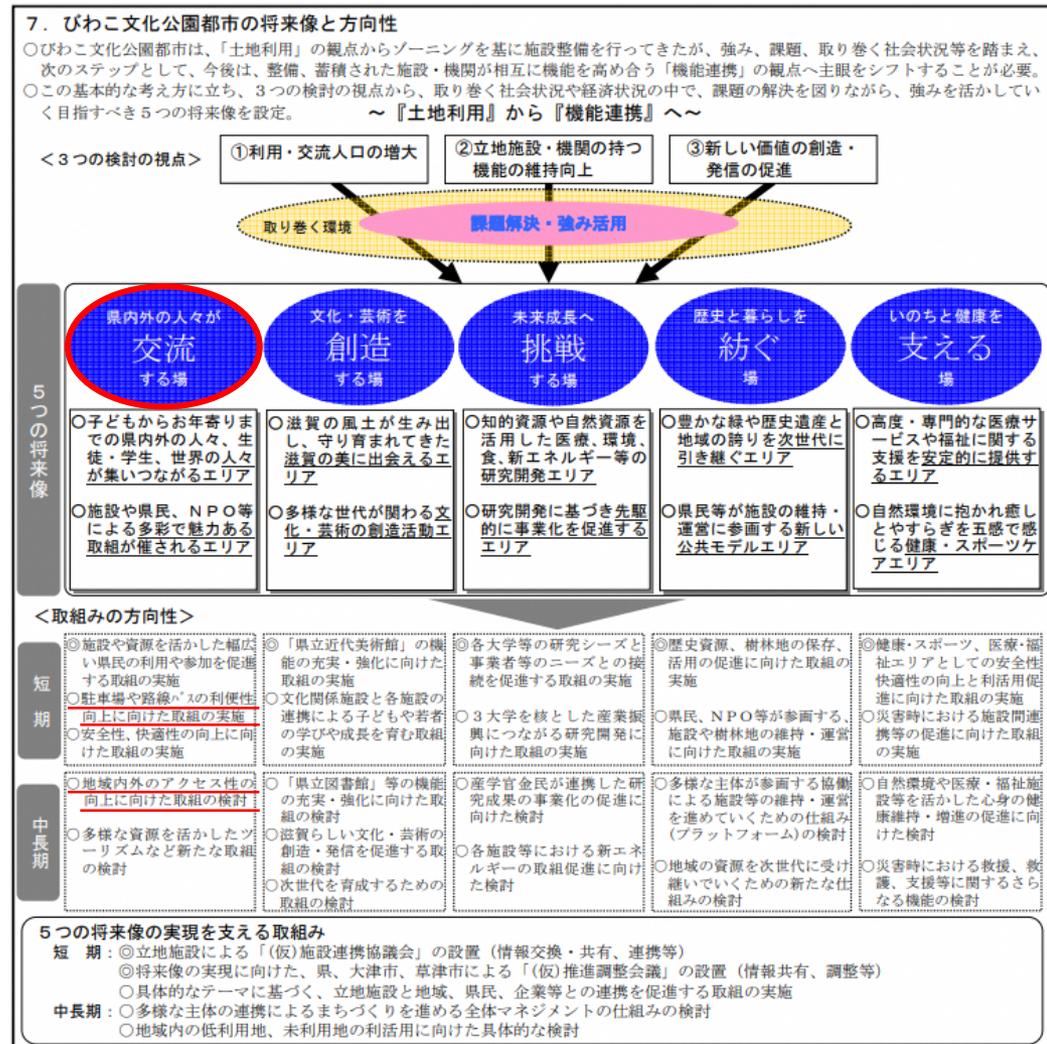
3. 上位計画での位置付け

《びわこ文化公園都市将来ビジョン（平成24年8月滋賀県策定）》

将来像：県内外の人々が交流する場

○駐車場や路線バスの利便性向上に向けた取組の実施《短期》

○地域内外のアクセス性の向上に向けた取組の検討《中長期》



3. 上位計画での位置付け

《草津市長政策集（令和2年2月策定）》

政 策：ずっと2活力<草津の産業・交通・地域・文化・女性の活躍政策>
ハイウェイオアシス構想を推進します。

《南草津エリアまちづくり推進ビジョン（令和3年10月草津市策定）》

目 標：充実した都市空間・交通環境で多様な交流が生まれるにぎわいのある
まち（参考資料p.4-2）

基本方針：市、県および関係機関で構成する「草津PAと連携したびわこ文化公園
都市周辺エリアの活性化構想に向けた研究会」での議論を踏まえ、
滋賀県南部の玄関口となり得る可能性を秘めた草津田上インター
チェンジ（IC）や草津パーキングエリア（PA）の周辺エリアにおける
交通結節機能の強化、にぎわいの創出、広域防災拠点の形成を図りま
す。（参考資料p.4-3）

施 策：草津PAと連携したびわこ文化公園都市周辺エリアの活性化に向けた
路線バスや高速バス等の交通結節機能の強化、地域振興施設の設置に
よるにぎわいの創出、周辺施設と連携した防災拠点の形成等の
可能性の検討（参考資料p.4-4）

4. 研究会検討成果

《草津PAと連携したびわこ文化公園都市周辺エリアの活性化構想に向けた研究会》

滋賀県、草津市を構成員として、令和元年7月に立ち上げ、令和元年度から令和3年度にかけて計6回開催し、基礎調査業務の結果をもとに、現状・課題の整理や今後の方向性等について検討した。（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により開催実績なし）

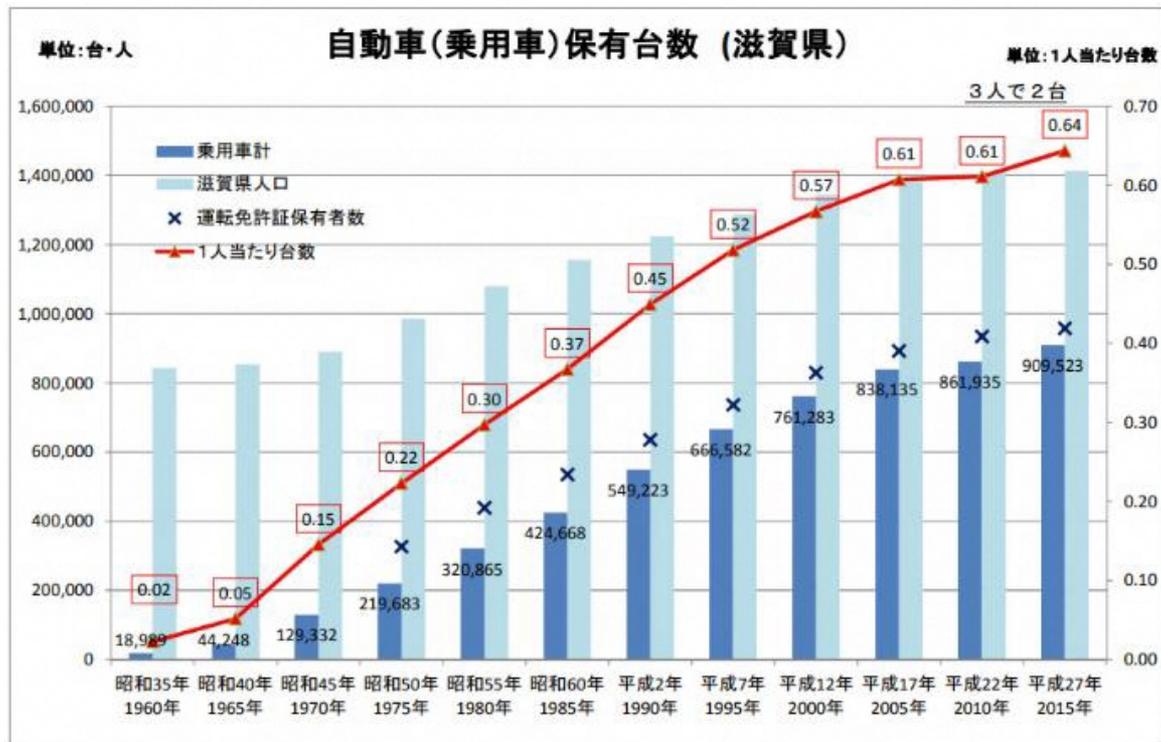
（研究会の開催実績）

令和元年	7月	研究会の立ち上げ 第1回研究会（現場視察含む）
令和2年	2月	第2回研究会
	3月	第3回研究会
令和3年	7月	第4回研究会
	10月	第5回研究会
令和4年	1月	第6回研究会（今回より大津市出席）

4. 研究会検討成果

《交通に関する課題》

大津湖南地域については、現在は人口増加が続いているものの、今後は他地域同様に人口減少、高齢化が進展することが予想されている中で、交通面では自家用車への依存が高く、主要な道路交通網での慢性的な渋滞や、高齢者の交通事故などが課題となっており、今後は、バスを含めた公共交通の充実が求められている。



資料：滋賀県統計書

図 自動車の保有台数の推移

4. 研究会検討成果

《高速バス》

草津PAを通過する高速バスの調査

- ・ 平日約340便、休日約380便、このうち下り方面の高速バスは朝～夕刻が多く、鉄道との棲み分けが必要。
→パーク&バスライドが可能な駐車場や路線バス・高速バスが利用するバスロータリー整備が有効ではないか。
- ・ JR草津駅及び南草津駅で乗車可能な高速バスはおよそ22便となっており、いずれも関東方面行き。ただし、コロナで減便されており、現在は15便程度。

【草津PA付近の通過時間帯別高速バス数】

通過時間帯	平日（便/日）		土日（便/日）	
	便数	割合	便数	割合
6～9時	28	8.1%	36	9.5%
9～12時	45	13.3%	50	13.2%
12～15時	25	7.4%	29	7.7%
15～18時	32	9.5%	39	10.3%
18～21時	40	11.8%	45	11.9%
21～6時	169	49.9%	179	47.4%
計	339		378	

【到着地別高速バス数】

到着地	平日(便/日)		土日(便/日)	
	便数	割合	便数	割合
東北	5	1.5%	5	1.3%
関東	70	20.6%	78	20.6%
甲信越	17	5.0%	17	4.5%
北陸	11	3.2%	11	2.9%
東海	66	19.4%	72	19.0%
近畿	130	38.4%	155	41.0%
中国	19	5.6%	19	5.0%
四国	18	5.3%	18	4.8%
九州	3	0.9%	3	0.8%
計	339		378	

※国土交通省「国土数値情報」より作成

4. 研究会検討成果

《路線バス》

草津PA付近を通過する路線バスの調査

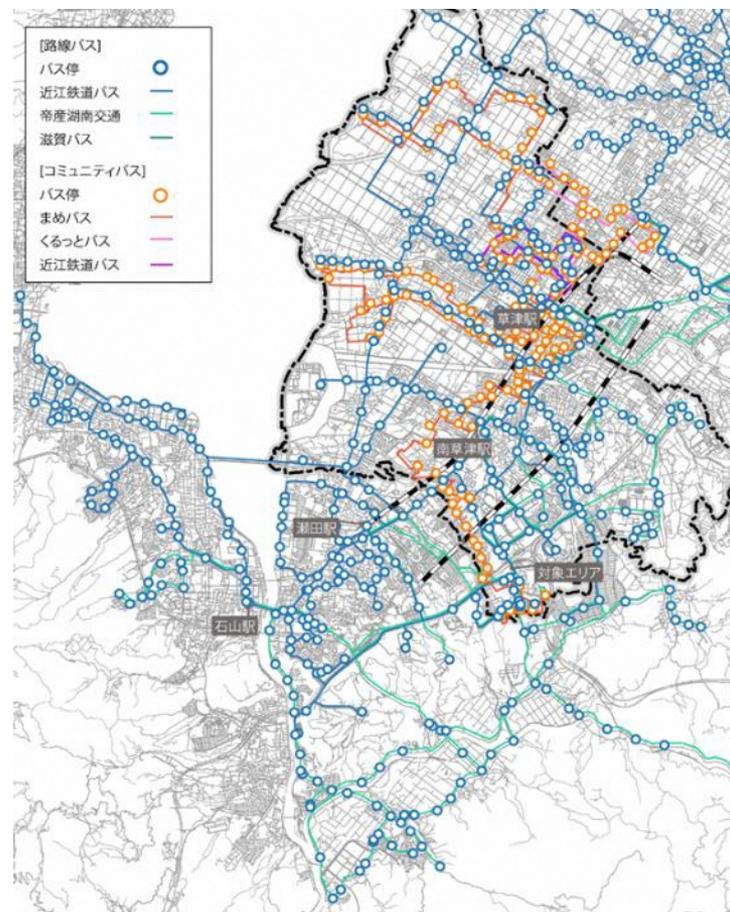
- ・草津PA付近（上りPA・下りPA）を通過する路線バスは草津駅、南草津駅方面と瀬田駅、石山駅方面があり、バス停はおよそ施設単位で設置されている。
- ・学生や病院利用を想定した路線であり、平日は20～30便（往復）となっている。

【草津PA付近の路線バス数】

路線	まめバス 草津駅医大線	帝産バス レストタウン線	近江鉄道バス 滋賀医大線 レイカディア線
便数	20便	30便	30便 10便

※参考 近江鉄道バスの輸送実績

- ・瀬田駅→滋賀医科大学病院前(約2.1万人/年)
- ・南草津駅→長寿社会福祉センター(約5.4万人/年)
- ・草津駅→長寿社会福祉センター(約1.4万人/年)



4. 研究会検討成果

《ヒアリング調査、アンケート調査》

高速バス

草津駅、南草津駅発の高速バスを運行している高速バス事業者にヒアリング

- ・西日本JRバス(株)・WILLER EXPRESS(株)・(株)OTB

路線バス

路線バス事業者にヒアリング

- ・近江鉄道(株)・帝産湖南交通(株)

公共公益施設

周辺公共公益施設にアンケート調査

分野	施設名称	分野	施設名称
芸術文化	滋賀県立図書館	医療福祉	滋賀県立草津養護学校
	滋賀県埋蔵文化財センター		びわこ学園医療福祉センター草津
	滋賀県立美術館		メイプル滋賀工場
医療福祉	国立滋賀医科大学付属病院		滋賀県中央子ども家庭相談センター
	滋賀県赤十字血液センター	教育研究	国立滋賀医科大学
	口腔衛生センター		龍谷大学瀬田キャンパス
	社団法人滋賀県薬剤師会		立命館大学びわこ・くさつキャンパス
	滋賀県立長寿社会福祉センター		京都大学生態学研究センター
	滋賀県立精神医療センター		滋賀県立東大津高校
	滋賀県立精神保健福祉センター	レクリエーション	びわこ文化公園（文化ゾーン）
	滋賀県立むれやま荘		滋賀県立アイスアリーナ
滋賀県立障害者福祉センター			

4. 研究会検討成果

《ヒアリング調査結果、アンケート調査結果》

ヒアリング

高速バス

- ・ **高速バス需要が一定程度見込めると**考えており、**乗り入れの可能性が高い**。
- ・ **高速バスは学生の利用が多いため、大学が立地しているのは魅力**であるが、通学という視点では難しい。
- ・ 利用者目線では、**上下発着場が同じバスターミナルでの整備が望ましい**。
- ・ **ETC2.0を活用**できれば、高速道路を一旦降りて利用する可能性がある。
- ・ **運転手の休憩場所**として立ち寄る可能性がある。
- ・ 多くのPAの駐車マスが混在しているため、**専用のマス**があれば立ち寄る可能性がある。
- ・ トラック需要が増える中で**バス専用の駐車場**があるとよい。

路線バス

- ・ **起終点を集約**することで、**運行効率・利便性の向上が期待**できる。
- ・ 本計画地を起終点とした**様々な方面への路線編成**の可能性もある。
- ・ 一時待機拠点としても期待がある。
- ・ **新たな観光バス事業の展開**も見込める。

アンケート

周辺施設

- ・ **80%以上**がバスを含む**公共交通について不足**していると回答。
- ・ 「利用者のアクセス性向上」「新たな方面からの利用者増」「職員や学生などの通勤・通学の利便性向上」などから、**60%以上が「あると良い」**と回答。

4. 研究会検討成果



- 【整備効果】**
- ◆ モーダルコネクティブの整備による
利便性や生産性の向上
 - ◆ びわこ文化公園都市を主とした
地域の活性化
 - ◆ 広域防災拠点として
災害対応の強化

4. 研究会検討成果

概 念：滋賀県南部エリアの活性化を図るため、広域的な道路ネットワーク（リンク）を活用し、地域振興機能および広域的な防災機能を備えた公共交通結節拠点（ノード）を整備するとともに、ICTの活用や新たなモビリティなど、新たな技術も取り入れることで、より効果的で効率的な運営や周辺施設との連携（マネジメント）を実現する。

【補足】

実態調査やヒアリング結果を踏まえると、現在、草津PAには高速バス停はないものの、草津PAを通過する高速バスや、二次交通として特にJR駅とびわこ文化公園都市を往復する路線バスがあり、また、将来的には新たなモビリティを活用することも見据えて、交通結節点としてのポテンシャルを有すると考えられることから、交通結節機能を有する拠点整備を目指すものである。